

発行：愛知県社会保障推進協議会  
E-mail：syahokyo@airoren.gr.jp

TEL:052-889-6921 FAX:052-889-6931  
ホームページ <http://syahokyo.airoren.gr.jp/>

参加実人数、473人（2日間のべ719人）、アドレス登録255回線、社会保障入門テキスト221冊 普及



愛知県で初開催の「中央社会保障学校」は、8月28-29日に名古屋会場と全国をオンラインで結んで終了しました。コロナ禍非常事態宣言等が多数発令される中、全国のみなさんの協力で無事に成功させることができました。ありがとうございます。

**愛知から2日間で182人受講** 愛知は登録124人、1日目、会場に58人、Web参加49人 計107人。2日目会場58人、Web参加24人の82人。のべ参加者182人でした。各団体、個人のみなさまのご協力に感謝します。愛知社保協もコロナ禍で新たなスタートができたこと、力を蓄えたことを力に運動を飛躍させましょう。第48回中央社会保障学校は、安達克郎氏(学校長、大阪



社協協会長、中央社保協代表委員)と、森谷光夫氏(現地実行委員長、愛知社保協議長)が開会挨拶を行いました。

**第1講座「コロナ禍の日本の政治・社会をどう見るか、どう展望するか」** 石川康宏氏神戸女学院大学教授  
コロナがあぶり出した社会の課題として自然との関係の在り方の課題、戦後最悪の経済危機の急加速という実態を告発し、新自由主義からの脱却が求められていると強調。いのちを暮らしを守る社会の到達点を、「幸福」大国デンマークなど北欧各国に注目して紹介しました。そして、日本の課題として野党共闘の強化へ市民が声を上げることの重要性を指摘し、いのちと暮らしを守る政治を政権交代で、と結びました。



参加者からは、●コロナのあぶりだした諸課題を、大きな視野から整理いただき、大変参考になりました。当面する政治課題を具体的に掘り下げ明確な展望を指示していただきました。●現在ニュースで報道されている時事情報や、日本と北欧の幸福度・GDPの差、またその歴史をととてもわかりやすく説明していただき、現在日本がおかれている経済の状況やアメリカ・中国との関係性を学ぶことができました。●2015年の安保法制廃止、市民連合と野党共闘の共同の闘いで日本で初めての市民が自分たちの権利を実現する政治改革が始まったとの指摘や北欧デンマークとの比較で日本の政治の現状を捉える視点、気候変動問題と経済成長をどのように理解すべきかという視点がとても勉強になりました。とても希望の描ける話でした。●日本の政治について学生時代に勉強する機会がなかったのですが、野党のコロナに対する方針やコロナ後の社会を切り開くための今秋選挙の大切さを改めて感じる事ができました。



## 第2講座「社会保障入門講座～『社会保障入門テキスト』を学ぶ～」を村田隆史氏・京都府立大学准教授が講義。

続いて、入門テキスト編集に携わった久保田直正氏(全日本民医連)、曾根貴子氏(全国保険医団体連合会)が、若い世代の職員とのフリートークや「私たちの暮らしと社会保障」を具体的に考える大切さを報告しました。参加者からは、●大学や専門学校で「社会保障・社会福祉」の講義をしており、学生に、いかにわかりやすくその意義を伝えられるかに苦心しており、大変興味深く拝聴しました。「社会保障入門テキスト」の作成も、コロナ後の本来の社会保障再生のために、時期を得た企画でした。●20代30代の選挙への関心が低く、社保の活動が若い人に広がる機会が少ない。私自身も社会保障についての学習会には民医連・健康生協に就職するまで一部の限定的な事項しか学んだことはなく、政治についての学習は皆無でした。労働形態や働く環境・内容についても考えを改める機会になりました。など、社会保障入門テキストへの関心も一気に高まりました。

## 2日目第3講座シンポジウム「コロナ禍の社会保障、課題は～医療・保健所・保育・労働相談支援の各現場から検証」



コーディネーターは、長友薫輝氏(三重短大教授)、シンポジストは、シンポジスト：医療の現場：大島民旗氏・医師・大阪民医連会長/全日本民医連副会長、保健所・公衆衛生の現場：塩川智代氏・保健師/名古屋市職労副委員長、保育、子育ての現場：武藤貴子氏・保育士・自治労連保育部会事務局長/名古屋市職労、愛知県の支援活動：竹内創氏・愛労連・事務局長)◎コーディネーター：長友薫輝氏(津市立三重短期大学教授)る現場の実態と問題克服の方向を報告しました。

●現在のコロナ禍で抱えている諸課題を、各分野から報告いただき大変参考になりました。塩川さんの、「申請主義が中心の保健福祉の仕組みの中で、健康を守るため保健師はアウトリーチが可能な職種です」の言葉が印象に残りました。

●保健所、保育所などのすさまじい職場実態が具体的にわかりました。その中でも労働者が高いモラル、エートスペースを持って頑張っており、そこにはまともな労働組合があることが大切だと思いました。愛労連の活動が塩民権を得ていることが力強く感じられます。石川公園でも強調されていましたが、公務労働の大切さとその一層の拡充が必要であり、その中で新自由主義のイデオロギー派遣を押し返す動きが始まっています。差が年の社会保障削減の上にコロナ禍で大変な状況ですが、負けない現場のエネルギーを感じることができました。

●それぞれ現場の様子がよく分かりました。名古屋の底力にも確信が持てました。塩川さんのレポートはすごい。各方面で紹介したいと思います。タイムリーなメンバーでしっかり学びました。



● 社会保障の歴史や現在の状況、不審点や世界の中での日本の位置づけなどさまざまな視点から社会保障を知ることができました。現地参加限定だけでなくオンライン参加なので参加しやすい環境だったのも良かったです。学んだことを仕事や日常生活の中で生かすことができるようこれからも知識向上に努めます。

● 「少子高齢化が進む中で社会保障に多くのお金は使えない」、「日本の借金は世界一で消費税アップはやむを得ない」、「世代間格差の中で高齢者から子どもにお金の配分を回すことが必要」といった言説が当たり前のよう語られている中、「本当に社会保障に回すお金はないのか」を問い直す中で、財源問題（格差を広げる消費税など）の論議を、社会保障の充実とともに考えていきたいと思えます。

◎新自由主義の歴史、生産力の質を転換し、温暖化対策と成長の両立という点など新鮮に学ぶことができました。北欧諸国を福祉の視点だけでなくジェンダー、人権、労組、政治など総合的に把握して優れた社会を作り上げる市民社会がどう形成されてきたかつかむことが大切だと実感します。

◎意欲的な取り組みに敬意を表します。世代をつなぐ新しい回路を作っていくことは私たちの学び直しそのものです。個別制度の目まぐるしい変わり方に目を奪われすぎ、全体が見えにくくなっています。村田氏のような基本の話、概論の話が今大切です。あらためてじっくり聞きたいと思いました。

**多数の感想文が寄せられています。**

最後は、山口一秀氏(中央社保協事務局長)が学習運動行動提起を行い、村松幸久氏(現地副実行委員長、静岡県社保協)と鎌倉幸孝氏(中央社保協代表委員、日本医労連副委員長)が閉会挨拶を行いました。



# 第48回中央社保学校行動提起

2021年8月29日  
中央社会保障推進協議会

(1) 「自助・共助・公助」論、自己責任を前面に打ち出す「全世代型社会保障」政策のねらいを明らかにして、「憲法を活かし、社会保障の拡充を実現する」政治への転換を求める世論を大きくしていきましょう。

(2) 「社会保障・社会福祉は国の責任で」「社会保障財源の確保」等を掲げ、「いのちを守る緊急行動」に結集し、さらに地域医療を守り社会保障・福祉を拡充させる共同行動を推進しましょう。

(3) 新「いのち署名」に最大限結集し、「高齢者のいのち・健康・人権を脅かす75歳以上医療費窓口負担2割化中止を求める請願」、「介護保険制度の抜本的転換を求める請願」など、制度改善を求める署名を秋から来春の通常国会へ向けて推進しましょう。

(4) 憲法改悪反対、社会保障の大改悪阻止、安全・安心の医療・介護・福祉の実現、災害復興、原発ゼロ、核兵器廃絶など国民共同の課題について、新自由主義に代わる経済政策が求められていることを強く訴え、国民的な運動に結集しましょう。

(5) 地域住民の実態と怒りの可視化、声、要求を集約して、地域社保協結成、再建、強化に向け、社保協加盟組織の力を結集させて奮闘しましょう。

(6) 学習は社保協運動の根幹です。学習を日常の活動にしっかりと位置付けて、各地域の団体や労働組合と共同し、学習運動に取り組みましょう。

社会保障誌2021秋号特集「社会保障入門テキスト」を活用し、学習、対話運動を強めましょう。

- 中央社保協 社会保障誌 社会保障入門講座～『社会保障入門テキスト』  
隔月発行 特集号 定価550円 学習会のテキストに活用してください。注文受付ます。
- 日本高齢者大会9月23日、愛知高齢者大会11月26日へのご参加を！
- 9月5日スタンディング・全国一斉蜂起、9月5日金山総合駅10時～11時
- 9月7日 秋の署名・運動スタート集会 18時30分～労働会館東館ホール
- 9月26日 国保・介護学習交流集会 介護・午前10時～、国保・13時30分